

議員定数及び議員報酬調査特別委員会 摘 録

1. 開催日 令和5年5月29日(月) 第1委員会室
2. 出席委員 政野太委員長 桂藤和夫副委員長 堀井秀昭 福山権二 藤木百合子 國利知史
松本みのり 林高正議長
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 山根啓荘議会事務局長 横山和昭議会事務局議事調査係長 山崎啓介議会事務局主任
5. 説明員 なし
6. 委員外議員 坂本義明副議長
7. 傍聴者 3名(うち議員 五島誠 前田智永)
8. 会議に付した事件
 - 1 付託事項の審査
 - ・市民アンケートの結果について
 - 2 今後の審査について
 - 3 その他

午前11時16分 開 議

- 政野太委員長 ただいまより、第8回議員定数及び議員報酬調査特別委員会を開会したいと思います。出席委員は全員でございます。この4月に議長が交代をされておりますので、林議長が新たに加わられた、それから委員外議員として坂本副議長がお入りになりましたので、議長から一言御挨拶をいただきたいと思いますが、よろしくをお願いします。
- 林高正議長 昨年の6月に、議員定数及び議員報酬調査特別委員会が設置となりまして、皆さん、精力的に調査、研究をされているということをお聞かせいただきました。議長交代で、今度、私はこのメンバーの中に入れていただいて、皆さんと一緒に検討していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。
- 政野太委員長 それでは、坂本副議長も御挨拶をお願いできますでしょうか。
- 坂本義明副議長 改めて、この場に來させてもらえたことを、まず感謝いたしたいと思います。どういふ話になっているかというのを、こういう場で、現場で確認したいというのが、大きな課題である。この前も、広島議長の会でもお話したのですが、今のままの報酬でいいのかというように、江田島の議長にもお話したことがあります。そうすると、江田島では、成り手もないという話も出ましたが、そこらも踏まえて、ここらでしっかりと、議員になりたい人がふえるような議論ができればいいなと思います。よろしくをお願いします。
- 政野太委員長 先ほど申し忘れましたけれども、会議に当たって傍聴、録音、録画を許可しておりますので、御了承ください。それでは、直ちに協議に入ってまいりたいと思いますが、その前に、きょうも資料をお配りしております。前回の会議から今日に至るまでに、新聞等々で議員定数に関連する記事があったものを、こういった形で資料とさせていただきますので、また、御一読をいただければと思います。

1 付託事項の審査

・市民アンケートの結果について

○政野太委員長　それでは、1点目の付託事項の審査ということで、市民アンケートの結果について、皆様に御意見をいただきたいと思います。事前に市民アンケートがモアノートにあげられているということで、ごらんいただいているかとは思いますが、この市民アンケートの取り扱いなのですが、これについて、きょうは皆様方の御意見をいただきたいと思います。もちろん、ホームページでの公開ということは、もう当初から決めておりますので、そのようにしたいとは思いますが、実際のアンケート結果を見ていただいて、こういった点は、もう少し集約できるのではないかとか、こういった視点をつけ加えてはどうかとか、あるいは、市民の方に記入をいただいている文言について修正をかけたほうがよいかどうかということについて、まずは御意見をいただければと思いますが、皆様いかがでしょうか。國利委員。

○國利知史委員　皆様からいただいた御意見は、私がこれを見る限り、いろいろな表現があって、かなり厳しい表現もあったり、言い回しは、少しは、適切ではないのではないかとこのところも見受けられたのですが、そこは、だからといって修正はしなくてもいいのではないかなと、私個人は思います。

○政野太委員長　まず、文言の修正についてですが、その辺については修正をしないという意見が、今、出ましたが、その他御意見ございますでしょうか。そうではない意見がもしあればですが、もしそうでなければ、文言についてはこのまま掲載をさせていただくということで御了承いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○政野太委員長　その他、このアンケートに気づきの点があればお聞かせをいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。きょうは、ホームページに公開するに当たって、この中身についての意見は、また後日改めて、議論していきたいと思っております。私から言わせてもらいます。この文言について、もし可能であればですが、年代別をつけ加えてはどうかと思うのですが、そのクロス集計は可能かどうか。いかがでしょうか、事務局では、事務局。

○横山和昭議会事務局議事調査係長　例えば、自由記載欄につきましては、20代の方、30代の方という形で、どの年代の方がどういった御意見を具体的に書いているかという形での公表というのは可能かと思います。その他、選択式の問いにつきましては、例えば具体的に、この項目について、どういった年代の方がどのような御認識をお持ちかということで、特に御意見ございましたら、できる限り、そちらに沿える形で集計を検討してまいりたいと考えております。

○政野太委員長　皆さんいかがでしょうか。私の提案でもあったのですが、技術的には可能ということなのですが、これから議論を深めていく上でも、より参考とできる内容のものを最終的に公表していけたらなと思っておりますけれども、いかがでしょうか。何か御意見ございますでしょうか。福山委員、よろしいでしょうか。福山委員。

○福山権二委員　年代別に集計できるのならやっただいと思います。できるだけ的確な議論をしようと思ったら、そういうことも必要だと思います。

- 政野太委員長 堀井委員もよろしいですか。何か御意見ございますでしょうか。このアンケートの公表に当たって。
- 堀井秀昭委員 年代別集計を入れるのは、どこへ入れようと思っているのか。
- 政野太委員長 記述がありますよね。その横にもう1枠つくって、大体この御意見は20代、30代の御意見ですという。そうなると、順番も多分かわって、20代、30代の意見を一覧に並べて、30代、40代、今、適当に言っていますけれど、そういった形で並べて公表するという。回答数の数字の横へ年代を入れると。
- 堀井秀昭委員 グラフが小さくなるということですか。
- 政野太委員長 技術的には多分、今の表記と大きさもかわらずできるかと思います。
- 堀井秀昭委員 例えば、問3の1番上、少ないところで聞いてみるのだけれど、回答で、あるが90になっている。例えば、この横に90のうちで、20代が何人、30代が何人と分けていくのか。
- 政野太委員長 そこまでのクロス集計可能でしたか。横山係長。
- 横山和昭議会事務局議事調査係長 少し検討させてください。
- 堀井秀昭委員 そこまでやるといえば、すごい大変。だけれど、年齢別に分けられるのは具体的にはどう記載ができると考えているのか。
- 政野太委員長 横山係長。
- 横山和昭議会事務局議事調査係長 例えば問8でありますとか、それから問11、問12あたりが、皆さん、自由な御自身の御意見を記載されていらっしゃる設問になります。こちらについて、年代別、20代、30代、40代という形で、年代別に分けて記載をすることで、例えば若い方はこういった御意見が多いのかなということはあるかと思いますが、そういった形での集計は短時間で可能かと考えております。
- 政野太委員長 堀井委員。
- 堀井秀昭委員 ということは、上の回答数のところではなく、その下の意見要望等の意見のところ、年代別に分けていくということ。それならできる。了解。
- 政野太委員長 その辺の整理を進めていただきますようお願いいたします。横山係長。
- 横山和昭議会事務局議事調査係長 次回委員会までに、ある程度の形のをまとめまして、再度御提案させていただきます。
- 政野太委員長 それでは、市民アンケートの取り扱いについては、きょうはこの程度で終わりたいと思いますが、何かそのほか、市民アンケートについて、何か御意見あれば伺っておきますが、いかがでしょうか。大丈夫ですか。國利委員。
- 國利知史委員 回答者数は、結果505名でしたか。本来、どれぐらい来ればいいよねという話をしていましたか。
- 政野太委員長 横山係長。
- 横山和昭議会事務局議事調査係長 おおむね400を目標としておりました。
- 政野太委員長 400で有効であるだろうというのが一般的なアンケート。それは超えておりますね。松本委員。
- 松本みのり委員 先ほど、市民アンケートについて修正は必要ありませんと言わせていただいたのですけれども、1点、市長報酬について書かれている方がいらっしゃるって、ここの情報が正しくないの

ではないかな。そこは注釈が要るのかなと。12 ページです。そういう時代もあったのだと思うのですが、現在の数値ではないのではないかなというので、注釈があるかと思います。

○政野太委員長 横山係長。

○横山和昭議会議事事務局議事調査係長 確かに、今、おっしゃいますように、事実でない可能性がありますので、そこは確認をとりまして、もし、事実と異なるようでしたら、例えば、現在は削減されておられませんという形で、注釈を入れてさせてもらう形で整理をしたいと思います。

○政野太委員長 もし、そのほかあればですけども、随時、事務局に報告をいただいて検討していきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○政野太委員長 それでは、このアンケートの取り扱いについては、きょうの時点では公開をさせていただくということと、それから集計を改めてつけ加えさせていただくということで、協議は終わらせていただきたいと思います。

2 今後の審査について

○政野太委員長 続きまして、今後の審査についてですけども、4月からもう少しピッチを上げていきたいという思いがあったのですが、市民アンケートの集計のことや、あるいは、いろいろ議長の選挙があったりということで、なかなか開催ができなかったんですけども、これからは前にも申し上げましたとおり、また、審議の回数をふやしていきたいと思っておりますので、御協力をお願いします。次の審査なんですけれども、皆さんに御提案なんですけれども、そろそろ、大分、いろいろな資料、昨年の6月から類似団体の資料であるとか、こういったアンケートもそろってまいりましたので、そろそろ、皆様方の御意見を聞かせていただければなと思っておりますけれども、それを次の委員会で、委員の1人1人の御意見を聞かせていただきたいなと思っておりますが、いかがでしょうか。まだ時期早々であるとかということがあれば、御意見いただければと思いますが、もちろん、次の会議までには、会派代表でそろっていらっしゃいますので、皆様の会派で、もちろん検討していただいて、御意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。ある程度絞ったほうがいいとかいうのがないですか。例えば、こういう項目について、みんなの意見を求めようとか。いかがでしょう。國利委員。

○國利知史委員 次に集まったときに、もう定員はどうだ、報酬はどうだという議論でいいのかな、とは思うんですけど、それまでに今回のアンケートの集計を、私たちが話をして、市民の方の意見を確認することも、一応やったほうがいいのかなとは思っています。

○政野太委員長 いかがでしょうか。議員アンケートあるいは市民アンケートの回答について、皆様方でこの場で読み解く。分析。いかがでしょうか。もちろん1人1人の意見をいただくというのは、まだ時期尚早ではないかと、私は思っているんですけど、ただ、その決定に向かうプロセスではなくて、まずは、今後、アンケートの結果をもとに皆様方の意見を聞いてみたいというのが最初の思いだったので、もちろんアンケートを通じてその意見を聞かせていただくというのも、僕はいいと思います。その他、御意見ございませんか。松本委員。

○松本みのり委員 アンケートをもとに、各会派どのような思いを持たれているかというのをまとめて、

次回、それを出し合っていくというのはいかがでしょう。

○政野太委員長　　今、お二方から御意見いただいております。この市民アンケートをもとに、いろいろ、また会派等で分析をしていただいたものを、次の委員会で、こちらで議論をしていくということで、提案をいただいておりますが、それに当たってどうですか、視点がある程度絞ったほうが意見が出やすいかなと思うのですが。福山委員。

○福山権二委員　　市民アンケートをとって、参考意見にしよう決めて、とったのだから、市民アンケートの結果が、相当な業務量があったと思うのだけれど、これだけの結果が出て、これをもとに、今、言われたように、各会派でも話をしてから、一応議論をしてから、またしたほうがいいのではないかと。それが、正直言って、会派的にすぐまとまるわけではないけれど、それぞれの議員が会派に所属しているけれど、自分はこう思うというのは持っていると思うのですよね。アンケート結果を見て、どうしても自分の思いに同調するような意見を探したりして、やはりこうだというふうにあったり、この結果を見て大きく判断をかえる人もいるだろうから、最後は議会が決めるので、このアンケートに協力してもらったことを見て、議会がどう思われているのか、どれが本当に正しいのかということも多様な意見があるので、この多様な意見の中で、ここが中心だと考えるのは、会派でまとめるか、個人は別にしても、そういう作業を本気で真摯にやる時間が必要だと思いますよ。

○政野太委員長　　今、3名の方から意見をいただいておりますので、私もそれでいいと思いますので、いかがでしょう。堀井委員もそれでよろしいですか。一遍このアンケートについて、分析を進めてみようということなのですけれど、よろしいですか。藤木委員もよろしいですか。

○堀井秀昭委員　　全議員のモアノートに入っているのか。

○政野太委員長　　入っています。先ほどの年代がまだ入っていないものですが、そこについては随時、追加資料ということで、御納得いただければと思うのですが。それでは、次回の審査については、今回の市民アンケートをもとに、それぞれの会派で持ち帰っていただきまして、その議案を集約していただいて、こちらで御意見をいただくということで、進めていきたいと思っております。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○政野太委員長　　日程については、事務局から御提案いただいてもよろしいでしょうか。

○横山和昭議会議務局議事調査係長　　今、会派でという話を、皆さんしてくださったので、その会派内で議論をいただくお時間をどのぐらいとればいかというところを、皆さんでお話いただいて、来月から定例会が始まりますので、そのタイミングで、また、回数をふやしていけばどうかと思っておりますが、いかがでしょうか。

○政野太委員長　　皆さんいかがでしょう。本会議が始まるので顔を合わせられる機会もふえるかと思うのですが、少しお話いただいて、時間をどの程度とればよろしいですか。一応、次で思っていたのが、実は6月9日の本会議の後、この委員会を開催しようかなとは思ってはいたのですが、もう少し時間をくださいとか、もっと早めたほうがいいのではないかとかという意見があれば、お聞かせいただければと思うのですが。福山委員。

○福山権二委員　　6月の議会中に、それぞれ話をしてもらって、議会が終わった段階ぐらいで議論をするのいいのではないかと。本会議の冒頭にするといっても、あと10日ぐらいしかないのです。できれば、何回も会う、本会議期間中に各会派とも。このアンケートをもとに十分議論してもらって、それ

を、また、次の委員会で持ち寄ろうというスケジュールのほうが良いと思いますけれど。

○政野太委員長　　今、少し時間に猶予があったほうが良いということではあったのですが、皆さん、それでもよろしいですか。その後、また今度、少し期間を短く開催していくことになるということで、御了承いただければ、そこは大丈夫かと思うのですが、トータルの日程もありますので。横山係長。

○横山和昭議会議務局議事調査係長　　今、委員長おっしゃいましたように、今後の日程のことを考えたときに、次の定例会後になりますと、約1カ月、今から時間が空くことになります。そうすると、具体的に報酬、定数それぞれ、例えば市民アンケートのこういう点から、こう考えたのだという、より具体的な御意見を、次回持ち寄っていただけるようであれば、しっかり議論を各会派でしていただいて、次の委員会につなげていただければと思います。もし、そういった、なかなか具体的な根拠といえますか、議論まで会派内で難しいことになりましたら、回数をふやして、まず、この特別委員の委員の皆さんで統一的認識を持っていただきながら、会派での協議の回数をふやしていただく必要があらうかと考えております。

○政野太委員長　　いかがでしょうか、皆さん。しっかり会派で煮詰めていただいて、議論を深めていただくということは大切かと思っておりますので、時間の余裕が必要であるというのであれば、時間をとっていきたくは思いますがいかがでしょうか。よろしいですか。そうすると、定例会の最終日に開会を目指して、時間をとってはいかがかと思いますが、いかがでしょうか。今の意見を聞かせていただくと。皆さんよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○政野太委員長　　では、6月定例会の最終日に特別委員会を再開をするということで、それに合わせて、各会派で、また、しっかりとこの市民アンケートについて議論を深めておいていただきまして、次のこの特別委員会では、皆様方の御意見を1つずつ伺わせていただくということで、よろしいでしょうか。國利委員。

○國利知史委員　　最終日に、それぞれの会派で、市民アンケートがこうだから、うちの会派ではこういう定員で、こういう報酬でいったほうが良いと思います、ぐらいまでは決めてくるということですか、確認なのですが。

○政野太委員長　　1番最初の、皆様方で決めたとおり、まずは定数について議論していくということではありますので、もちろん会派の中で報酬も合わせた議論をしていただくのはいいのですが、まずは定数を、この会議では進めていきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。もちろん、会派では、同時に進めておいていただいても結構かと思っております。それでは、次回は、6月定例会最終日、6月30日の広報委員会終了後、特別委員会を開催させていただこうと思っておりますので、よろしくお願い致します。

3 その他

○政野太委員長　　それでは、3点目のその他なのですが、実は前回の会議から視察へ行ったらどうかとかというお声もいただいておまして、事務局とも相談をしておまして、事前にお渡ししている資料を見ても、秋田県の北秋田市というのが非常に自治体として似ている。面積あるいは人口、

それから議員定数。議員定数が、実は昨年の選挙において、2名減の18名にされているという経緯から、どうかということ、現地にも事務局から当たってもらったりもしたのですが、まずはウェブでできないかなと思って当たって見ていただいたのですが、ウェブでの準備ができないと、北秋田市のほうが。それでは、現地へ赴くかどうかということもあるのですが、皆様の御意見をいただければと思うのですが。定数を2減された経緯は議事録等を見させていただければわかると思うのですが、ただ、減ったことによってどんな影響が起きているのかとか、そういったことについて聞いてみたいという思いがしているものですから、それについて皆さんいかがでしょう。ただ、日程的にもかなり厳しいと思うので、実際に行くとなると。林議長。

○林高正議長　　私は、よそに行って、見て帰って、自分たちの定数とか報酬を決めるというのは、基本的には反対です。自分たちのことは自分たちで決めればよいと思います。

○政野太委員長　　今、議長からそういう御意見もいただきました。私も、この委員会としての視察というのは非常に難しいと思っております。ただ、ここまで、他の自治体の資料をそろえていただいたという、その1つの根拠として、北秋田市の議員定数の削減については、少し経緯を聞いてみたいという思いはしておりますので、資料としては、何か手に入れることは可能ですか。実際に行く行かないではなくて。横山係長。

○横山和昭議会事務局議事調査係長　　委員会として具体的にこういった資料がということがあれば、それに基づいて事務局間で調整をしたいと思っております。

○政野太委員長　　これからの議論の参考にするためにもいかがでしょうか。ここまでそういう経緯で進めてきたこともあるので。何か御意見ございませんでしょうか。藤木委員。

○藤木百合子委員　　いろいろな御意見が出ているので、それを会派で煮詰めて、意見を持ち寄るではないかと思っております。

○政野太委員長　　だから、視察については現時点で必要ないということでもよろしいですか、わかりました。政務活動で行かれる分については、委員会が関与することではございませんので、もし、興味ある方は御検討いただければと思います。視察については、とりあえずこれで一旦議論を終わらせてもらって、その他、御意見ございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○政野太委員長　　事務局もないですか。

○山根啓荘議会事務局長　　ございません。

○政野太委員長　　それでは、ないようですので、協議事項をこれにて終わりたいと思います。次回の予定なのですが、先ほど決めたとおり、令和5年6月30日の広報委員会終了後、また、時間は改めて御案内させていただきたいと思っております。それでは、本日はお疲れさまでございました。ありがとうございました。

午前11時46分　散　会

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

議員定数及び議員報酬調査特別委員会

委員長